



5年生 大根づくりに挑戦



種まき（9月30日）

5年生が“えいようまんたん畑”に『おいやんクラブ』の方々に教えていただきながら大根の種まきを行いました。一学期はじゃがいもでしたが、今回は大根を育てます。初めに、おいやんクラブの方から種のまき方について説明をしていただきました。まくのは一人2箇所。決められた場所に、手で軽く掘ったところに種を3粒入れ、その上から土を軽くかぶせるということでした。説明後、種まきのお手本を見せてもらって、続いて、子どもたちが種をまきました。大根は、種を植えてから一週間位で芽が出て、そこから10～14日位経って葉が3～5枚出てきたら「間引き」をするそうです。



間引き（10月21日）

種を蒔いてから約3週間が経ち、育てている大根の間引きを行いました。この日も『おいやんクラブ』の方々に教えていただきながら間引きを行いました。方々に教えていただきながら間引きを行いました。種まきの時に、一つの穴に3粒種を入れていて、上手く発芽したら一ヶ所から3株出てきているので元気なもの1本だけ残して他を間引くということです。始める前に、間引き方のお手本を見せてもらい、続いて、子どもたちが教えてもらった通り慎重に間引きと土寄せを実施しました。なかなか上手い出来ない子もいましたが、そんな時にはおいやんたちが優しく丁寧に教えてくれ、間引き作業は無事終了。その後、肥料やりと水やりをしてすべての作業が終わりました。



3年生 みかんの収穫体験をしたよ！

10月19日（水）、3年生が宮原駅近くの宮澤さんのみかん畑で収穫体験を行いました。

7月に摘果体験をさせていただいた畑です。この日も、有田市のみかん課の職員さんや宮原町の農業士の方々が来てくださり、子どもたちの体験をサポートしてくださいました。初めに、指導の先生から美味しいみかんの見分け方、収穫する時の安全なはさみの使い方やとり方についてお話を聞かせていただき、その後畑に移動しました。畑に着くと、7月の摘果体験時には緑色でまだ小さな実だったのが、夏の間に太り、秋の深まりと共に黄色やオレンジに色づいたおいしそうなおみかんが畑一面に広がっていて子どもたちを驚かせました。農家の方々は、収穫を迎えるまで、除草・肥料やり・摘果・消毒など、たくさんの作業と努力を重ね大事に育ててきた成果ですね。畑では、農業士の方々が各グループに一人ずつ付いて、収穫の仕方を見本を見せてもらった後、一人8個ずつ収穫させていただきました。途中、“片手取り”や“二度切り”などの技法を教えてください、また、「今日収穫しているみかんの種類は“極早生みかん”やで」とか「土の上に白いシートを敷いているのは、雨を通さず、より甘くておいしいみかんを作るため（土に水がたまったらみかんの味が薄くなるから）」などと、疑問や質問にも優しく答えてくださり、とても貴重な体験学習の時間になったと思います。

収穫終了後、一個のみかんを4つに割る「有田むき」というむき方を教えてもらい、全員で「有田むき」をしてとりたてのみかんを試食。子どもたちはみんな笑顔で、「おいしい！」「あまい！」と大絶賛でした。





4年生となごみデイサービスとの交流

4年生が、10月18日（桜組）と20日（鳩組）に、なごみのデイサービスを訪問して利用者さんと交流をしました。新型コロナウイルスの流行で、2年以上できなかった対面での交流がやっと再開できとても嬉しく思います。



今回の交流会は、コロナ感染防止対策として、屋外で実施されました。子どもたちは、利用者さんに楽しんでもらおうと、歌や手作りのゲーム・プレゼントを準備して訪問の日を心待ちにしていたようです。

今回子どもたちが考えてきたプログラムは、桜組が『ボーリング』『〇×クイズ』『歌 ♪世界に一つだけの花♪』、鳩組は『ジェスチャークイズ』『玉入れ』『歌 ♪負けないで♪』でした。どのゲームも子どもたちの手作りで、リアル感やアイデアがいっぱい。例えば、『ボーリング』のレーン、子どもたちが段ボールをいくつか繋げて作り、ピンはペットボトルに点数を書いて作って、当日持参したそうです。その他、『ジェスチャークイズ』では、子どもたちが一生懸命身振り手振りで問題を出し、『玉入れ』や『〇×クイズ』の内容もよく考えられていて、利用者さんも笑顔で楽しく参加できたようです。両組の『歌』の発表では、利用者さんが手拍子をして楽しそうに聞き入っていました。

最後は、子どもたちから利用者さんに、折り紙で折って中に手紙を入れた「ボックス」（桜組）やメッセージ付き「しおり」（鳩組）など、手作りプレゼントが渡されて交流は終わりました。手紙やメッセージには、「長生きしてね」「体に気を付けてください」「元気でいてください」等々、心温まる言葉が書かれていて、利用者さんからも「子供ら可愛いなあ」「楽しかったよ」「また来てほしいわ」「元気もらえたよ」等々、喜びの声がたくさん聞かれました。

子どもたちは初めての対面交流で緊張も多かったと思いますが、スタッフさんのご協力を得て、利用者さんにたくさん笑顔と元気を届けられ、楽しく有意義な時間を過ごすことができたと思います。



おもしろサイエンス教室

10月22日（土）、宮原公民館で「おもしろサイエンス教室」が開催され、宮原小学校児童が、1～5年生まで13名参加していました。講師先生は、この日も「有田おもしろ科学グループ」の5名の先生方でした。

今回の教材は、『独楽（コマ）の不思議』ということで、初めに、色々な“コマ”の種類や特徴などについて説明してくださいました。講師先生が見本のコマを見せたり、実際に回したりしながら説明してくださるので、子どもたちはあまり見たことがない珍しいコマやお話に興味津々でした。

コマについてのお話が終わると、いよいよコマ作りの開始です。この日、子どもたちが作るのは、『永久ゴマ』、『ペンハムのコマ』、『吹きゴマ』の3つです。作業に入る前には、先生から、「コロナ禍だから、あまりみんなと近づき過ぎないように!」、感染防止対策もキッチリと。



各々のコマの作り方の説明を受けた後、子どもたちは説明通りに作業を開始。どのコマ作りにもみんな一生懸命真剣に取り組んでいましたが、何せ1年生から5年生まで、学年もバラバラ。当然、理解度にも作業スピードにも差が出ます。先生方は一人ひとりの進み具合をしっかりと見取って、必要なアドバイスやお手伝いをしていてくれました。おかげで、低学年の子も時間内に3つのコマをきちんと完成させ、みんな大満足でした。

最後は、みんな大好きな「スライム作りです。この日は、時間の関係で、2つの小さなコップに材料と「ホウ砂水」を分けて用意してくれていました。子どもたちは、ジップロックに材料を入れ、続いて、好みの固さに仕上げるために、ホウ砂水の量を調整しながら入れて、コネコネ揉むだけで完成。みんなうれしそうな笑顔でした!!

講師の先生方、お忙しい中ありがとうございました。児童の皆さん、学校以外でも、今日のように楽しく学ぶ機会はたくさんあります。これからも色々なことに興味をもって、どんどん挑戦して行ってほしいです。

